

学生生活を包括的に 支援する図書館をめざす

2グループ

西南学院大学	山下大輔
名古屋女子大学	北村 咲
日本女子大学	赤塚愛子
麗澤大学	金子千景
東京薬科大学	斉藤稚穂
明治大学	西脇亜由子
神戸学院大学	森岡寿昭

2009.11.13 私情協研修
第4分科会

1. 学習支援の現状

- 事例1 入学時のオリエンテーションのみ
- 事例2 基礎演習の1コマ利用
⇒図書館スタッフの労力限界！
⇒より踏み込むためには？
⇒教員への個別アプローチ 具体的&実益的な内容を提示&擦り合わせ

Ex.)「企業情報を集めるためには？」
体系化が必要。通期での授業への組み込み、カリキュラム化
- 事例3 「図書館活用法」授業開講
⇒「とりこぼし」はある！
⇒教員との交渉 → 図書館にまかせられること、教員のサポート分野であること
Ex.) アカデミックスキル「レポートの書き方」 → チューター制度の導入によりフォロー
(図書館内、図書館→教員に依頼→教員がリクルーティング)

2. 課題抽出

- 図書館スタッフの限界！
- 体系化が必要。継続的な学習支援の必要性
- 教員・他部門との連携不足
- 成果が見えにくい！

Ex.) …図書館の評価とは？(効果測定) → 数字で！！
・EJ等、電子化への切り替え
→アクセス数で利用数明確化
・雑誌書架にIC
・滞在時間
・アンケート

3. 提案 = 日常的支援策 =

- TAによる「レポートの書き方講習」
⇒各専門分野でのTAスタッフを準備
※図書館独自の動きになっていないか？全学で管理
- 学生によるパスファインダー&e-Learningの作成？
→図書館員では気づかない目線でのガイド
- e-Learningのオープンソース化
・面倒でない「学び」、続く「学び」=遊び感覚
・学部別に作成→プロフィールから学習することができる

3. 提案 = 日常的支援策 =



- **学生ポータル × 図書館ポータルの統合**
ログインしたら、図書館の情報もすぐに見ることができる
→ 学生視点で使いやすい！
- **おすすめ資料**: シラバス画面で「先輩がこの時期読んでいた本」が表示される
※個人は特定できない。
※公開範囲を限定できる。「友達まで」「ゼミ生まで」...
- **おすすめ講習会**: 傾向から講習会へ誘導。「予約」「申し込み」も一気にその場で！

3. 提案 = 日常的支援策 =



- 読書ラリー(神学大): 学生のおすすめ本 & 書評を掲示。→ インセンティブあり
- BBSの利用 = WEBレファレンス、アドバイス
・いつの間にか誰も使わない?? 荒れる??
・大学共同で運営できないか?

**コミュニティ → 図書館スタッフを助けるツール
&
学生の連帯感、安心感 → 学びへのモチベーション**

3. 提案 = スポットの支援策 =



- 利用者教育 = 専任職員の仕事??
- 業務委託への移行の可能性
→ どう教育するか?
マニュアル化の限界は? タイムラグの問題

3. 提案 = スポットの支援策 =



- 図書館職員は他部門・教員との連携に注力。
- OCでのイベント
「生まれた日の新聞をさがしてみよう~DBを使って」
⇒ 入試課へのアピール ⇒ 入学予定者への導入教育講習への展開
- 学生支援との協働
⇒ 「業界動向を探ろう! ~DB講習会」

**学生に響く
ネーミングが大事!!**

まとめ



- 身近に過ごせる場所
- 自然に入れる場所

「使わない」学生にも！



- “何か”の価値を見出せる場所
- 自発的な学習を創出する場所

「図書館が私たちには必要です！」



最後に



- ラーニングコモンズは目的でなく、あくまで手段！
- 目的を明確化し、規模に合った手段を選び取るのが、これからの**大学図書館員のミッション**。
- 図書館員は、教員・他部門との連携を取りながら、学生と資料を結びつける**コーディネーター**である。